『音楽室の日曜日』

弘前市立松原小学校　齋藤莉緒

わたしが、『音楽室の日曜日』を読みたくなったのは、表紙の絵がおもしろそうだったので読みたくなりました。この本の内ようは、学校の音楽室の楽きが生きていて、その楽きたちの日曜日をえがいた本です。

この本は読んで思ったよりも気持ちがウキウキしてさらには感動もあたえてくれた本です。読む前はただたんにおもしろいだけかと思っていました。

この本の作者は「人びとのたすけ合いが大切である。」ということを読者につたえたいのだと思いました。理由は、オルガンちゃんはあがりしょうで楽きの仲間が音楽会などの音をならさなければいけない時に、あがらない方ほうを楽きたちがさがしてくれたというところからわかりました。

わたしもオルガンちゃんのようにあがりしょうのけいけんがあります。学校のじゅ業中にあてられ、みんなが注目したとたんに言いたいことがあったのに頭の中が、急に真っ白になってはずかしい思いをしたことがあります。そんな時、そのあがりしょうにならないように考えてくれる人が一人でもいたらわたしはとにかくかんしゃするだろうと思います。

びっくりしたのは、ハイドンをよぶときに、ハイドンは行くのをきょひしていて、楽きたちが「せーのハイ、ドン。」といったらハイドンが出てきてすっごくびっくりしました。

次にこわかった場面は、次の場面です。カスタネットがネコ科病とうに遊びに行った時にライオンにつかまってしまってさっき、言ったとおりのやり方でハイドンをよび出し、ライオンの子守歌をオルガンでひいてライオンがねむったところでカスタネットがにげだそうとしたら、カッパ温せんのおばちゃんが思い出したことを口に出してしまい、ライオンがねむりからめざめてしまって、ライオンがにげだそうとしているカスタネットにとびかかり、あともうちょっとでカスタネットはにげられなかったところです。カスタネットがにげられなかったらと思うとぞくっとしますね。

かっこいいところは、ちょっと前にもどりますが、ハイド

ンをよぶ時、時間がなかったのでおばちゃんの車に乗せてもらうのですが、おばちゃんの車が赤のスポーツカーだったというところです。かっこいいし、おもしろいですね。おばあさんになってもこのくらい自信があったらいいですね。

今後、わたしはずっと自信を持って、何でも取り組むということと、人びとがこまっている時に助けてあげるやさしい心を持てる人になりたいです。